

小学校だより

第297号

杉並区久我山4-29-60

立教女学院小学校

<http://es.rikkyojogakuin.ac.jp/>

人を大切にする学校として

教頭 上川 恵

今年は卯年。うさぎは私が初めて飼ったペットで、私にとって身近な動物です。

小学生の頃、弟の幼稚園で生まれたうさぎを一羽引き取ることになりました。片手に乗るほどの小さなそのうさぎは、真っ白い毛に真っ赤な瞳の、昔話に出てきそうな典型的なうさぎでした。早速名前を決める家族会議が始まりました。我が家は家族全員イニシャルがMでしたので、ペットも当然Mから始まるものにしようということになりました。どういうやり取りがあったかは記憶にありませんが、最終的に、本棚にあった絵本の題名から「マギー」と名付けました。

マギーを飼い始めてから、うさぎの生体についての知識が自然と増えていきました。うさぎの好物と言えばニンジンだと思っていましたが、マギーはブロッコリーとたんぼぼの葉が好物でした。餌を持ってケージに近づくと、のびあがって鼻をヒクヒクさせて欲しがります。小さなラビットフードを摘んで差し出すと、指を噛むことなく器用に食べてくれます。うさぎが自分のうんちを食べて栄養補給していることも、観察をしていました。うさぎをお風呂に入れることはしません。耳の先から尻尾の先まで、自分で器用にペロペロとなめて清潔にしています。前足で顔を洗う仕草はたまらなく可愛いし、耳を丁寧に撫でる仕草は、まるでシャンプーのCMのモデルさんのようです。時々家の中で放し飼いにしていたのですが、鳴き声を出さない、呼んでも来ないうさぎを探すのは大変です。そんな時は、ラビットフードの箱をシャカシャカと鳴らすと、フローリングの床に当たる小さな爪の音と共に、ピョコピョコと出てきます。頭を優しく撫でてあげると鼻をブーブーと鳴らします。指を出すとペロペロと舐めます。うさぎの舌は少しザラザラしていて、ヨダレは少なく指が濡れることはありません。犬や猫のような懐き方ではありませんが、十分に心が通っている感覚がありました。マギーとの生活は、言葉を介さなくても心が通じるということを教えてくれました。

先日行われた大澤眞木子理事長のご講演の中でも、心をキャッチするというお話がありました。お母さんは、言葉を知らない赤ちゃんの目の動きや泣き方で、何を訴えているかを想像し心を読み取ろうと一生懸命に思い巡らせて言葉をかけます。思いが通じた時赤ちゃんはご機嫌になり、お母さんは笑顔になります。このような毎日の積み重ねが親子の絆を固く強いものにし、互いの愛着が育っていくというお話でした。

立教女学院小学校は、なかよしの授業、縦割り教育、アイメイト犬との交流などを通して、相手の気持ちや立場を考える機会をたくさん設けています。相手を慮ることは、相手を大事に思うこと。立教女学院小学校は、人を大切にする学校でありたいと願っています。

マギーの名前の元となったのは、アイリーン・ハース作「わたしのおふねマギー-B」という絵本です。内容が思い出せず、週末図書館へ探しに行きました。久しぶりに手にしたその絵本は、記憶の片隅にあった色鮮やかな表紙の絵と合致しました。興味がありましたら読んでみてください。

《アイメイト協会による授業 4年生》

見る 聞く 体験する

12月に行った4年生での授業テーマは「様々な障がい・国内初盲導犬の歴史・アイメイト使用者の方のお話」でした。

ゲストは、40歳ごろ全盲になったアイメイト使用者のHさん。「アイメイトと一緒に行動する様子を見て、話を聞いて、知ってください。話を聞いてくれてありがとうございます。質問に何でも答えます。」とおっしゃってくださる方でした。

お話に頷いたり首を振って答える子どもたち。「見えない私にどうしたら伝わると思いますか？」この問いをきっかけに子どもたちは気付きを得て、Hさんとの心の距離が近くなりました。音にすると伝わることに気づくのは容易なことでした。始めは遠慮があり、アクションするにはほんのちょっとした勇氣が必要だったのです。

質問の手は次々と挙がりました。「お買い物はどうするんですか?」「お料理はどうするんですか?」「お風呂やトイレはどうしていますか?」「アイメイトのお世話はどうしていますか?」「ハーネスを持っていて疲れませんか?」「今、どう見えていますか?」等々。

物は所定の場所に置いて、みんなのお母さんがしているように料理も割れた食器の片付けも何でも自分で、色だけはわからないから洋服は色別に分けて引き出しに入れて、というHさん。授業の後、給食も一緒に召し上がっていただきましたが、みかんの皮を素早く花びら型に剥く様子を目にした子どもたちはびっくりしていました。

生活のことなどを教えていただき、アイメイトと風を切って歩く様子を拝見し、知ることや理解することが大事だと実感する時間となりました。障がいがある方にお会いしたら躊躇せずに声をかけられる人になれることでしょう。



《狂言観賞 5年生》 久しぶりの杉並能楽堂♪

1月13日、杉並能楽堂にて5年生が狂言「柿山伏」と「附子」を鑑賞しました。

面白いところでは笑い、能楽堂に響く狂言師の声に目を見張り、ワークショップでは扇に大事な意味があることを知り、人間国宝：山本東次郎先生のお言葉に感銘を受けてきました。

派手な照明や音響がない狂言には、見ている方を嫌な気持ちにさせない演出と心づかいがあり、言葉には魂が宿る「言霊」がある、といったお話等々。世界無形文化遺産の狂言から日本人の心を学ばせていただく機会となっています。



「附子」太郎冠者・次郎冠者・主人（東次郎先生）のシーン

《 6年生 社会科見学 》

1月17日、公民の学習の一環として、国会議事堂と最高裁判所に見学に行きました。社会科見学で最高裁判所に行くのは、2019年度以来3年ぶり。コロナウイルスの感染拡大により、最高裁判所はしばらく見学の受け入れを中止していたので、待ちに待った再開でした。

建物の中に入ると、そこには普段テレビや新聞でしか見ることのない景色が広がっています。社会科見学のしおりを片手に、思わずきょろきょろ。マスクをずらして匂いをかいだり、足踏みをして床の感触を確かめたり……。文字や写真だけでは分からない沢山の情報を忘れまいと、熱心にメモをとる様子が多く見られました。今回の見学が、日々の政治や裁判のニュースに目を向けるきっかけの一つとなることを願っています。

***** 児童の感想より *****

- この場所で憲法や予算の話がされているのだと思うと、議員の方々は居ないのに、肌がピリッとしました。
- 最高裁判所はずっしりと重みがあり、歴史を感じさせるような空気がありました。
- 最高裁判所の大法廷の中のタペストリーがとてもきれいで、まるで太陽や月の光が海に反射しているようで思わず見とれてしまいました。
- 国会議事堂、裁判所どちらも、広さや造りなど、実際に行かないと学べなかったことが多くあって、とてもよい機会になったと思います。



衆議院の本会議場
「総理大臣はどこに座るのかな？」



天皇陛下の御休所
「御休所だけで、50億円!？」



最高裁判所の大法廷
「タペストリーには何が描かれているんだろう？」